

学術俯瞰講義：「死すべきものとしての人間」(1)

現代人と死生観 ——死生学とは何か——

2009年4月20日

人文社会系研究科・教授(宗教学)
島 園 進

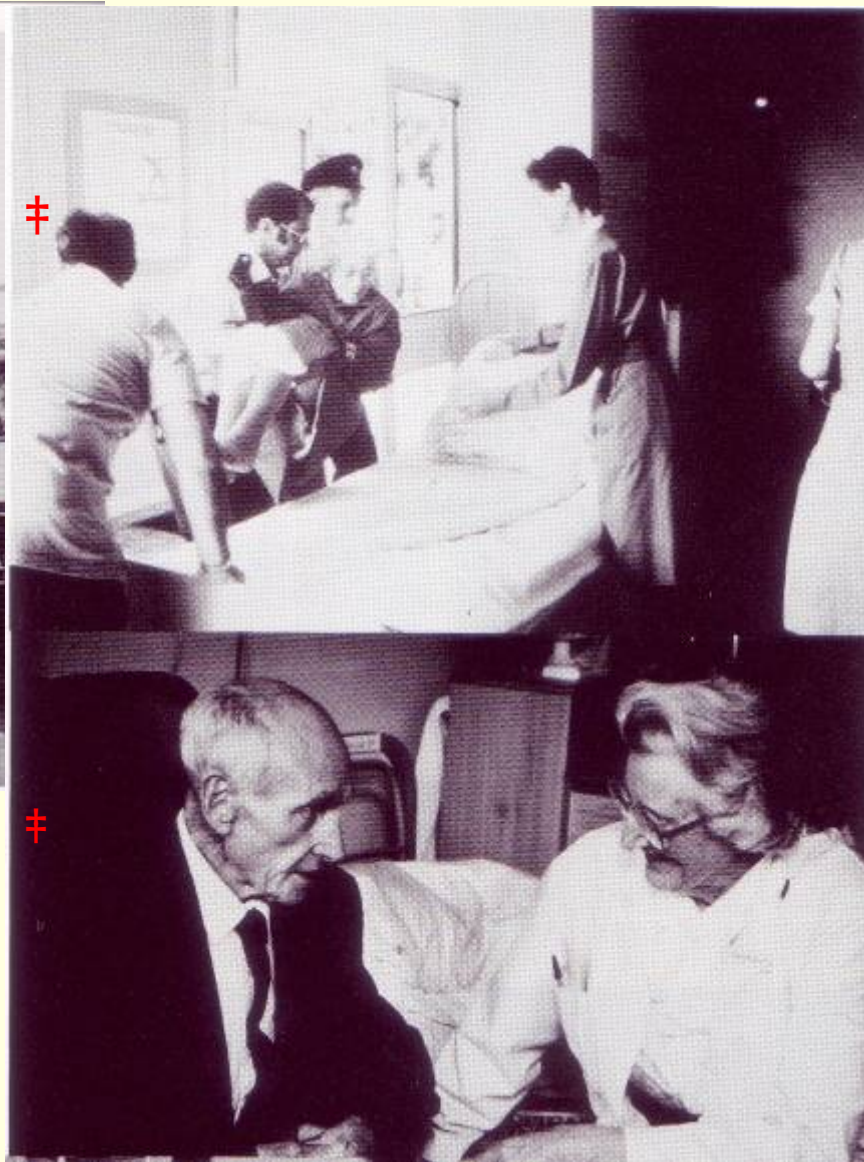
※: このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

I . 新しい知の領域としての「死生学」

- Death Studies, Thanatology = 「死生学」
デス・エデュケーション = 「死の準備教育」
- ホスピス運動と死にゆく人への関心
シシリー・ソンドースと聖クリストファー・ホスピス
(1967)
E・キューブラー・ロス『死の瞬間』読売新聞社(原1969)
レイモンド・ムーディ『かいまみた死後の世界』評論社
(原1975)



聖クリストファー・ホスピス (1967年)とシシリー・ソン ダース (Cicely Saunders,)



シャーリー・ドゥブレイ著 『ホスピス運動の創始者 シ
シリー・ソンドース』、若林一美他訳、日本看護協会
出版会刊、1989年より許可を得て転載。





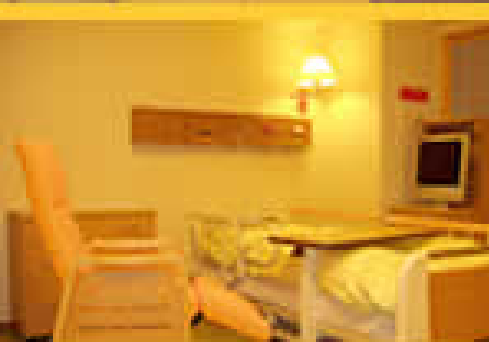
◇日本の受容

- 柏木哲夫氏と死の臨床研究会(1977)
- アルフォンス・デーケン氏と「生と死を考える会」(1983)
- ビハーラ(1985)
- 田宮仁氏と長岡西病院
- 仏教看護・ビハーラ学会
- (2004年12月18日)

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた

『仏教とビハーラ運動』
(著:田代俊孝 法蔵館 1999)

の表紙の画像を
省略させていただきます。





がんの痛みをやわらげる「緩和ケア」

症状を緩和すれば、がん治療と向き合う元気ができます。
治療と一緒に始めましょう「緩和ケア」。

がんになったら、『緩和ケア』。

詳しくはホームページで
www.kanwacare.net

平成19年度厚生労働省委託事業

JJPM 日本緩和医療学会

Orange Balloon Project



がんになったとき、
病気だけでなくいろいろな苦痛と闘わなければいけないとしたら…
痛みは、あなたの生きるエネルギーを奪います。
強い倦怠感、もうなににもできないという無力感をまねきます。
吐き気は、あなたを一日中不快な気分になせます。
気持ちの落ち込みは、あなたの力を奪います。
希望が見えないことは、あなたを絶望の淵に追いやりまします。
がんになったとき、
からだやこころの苦痛を和らげる
医療があることを知っていますか。
緩和ケアは、がん医療を充実させる大切な医療。
苦痛が緩和されれば、おだやかな時間を取り戻せます。
遠慮せず、勇気を出して、言ってみましょう。
「緩和ケアを受けたいです」と

生きる勇氣

かんわ
緩和ケア

がん治療

おぼえてください、『緩和ケア』。

詳しくはホームページで
www.kanwacare.net

平成19年度厚生労働省委託事業

JJPM 日本緩和医療学会

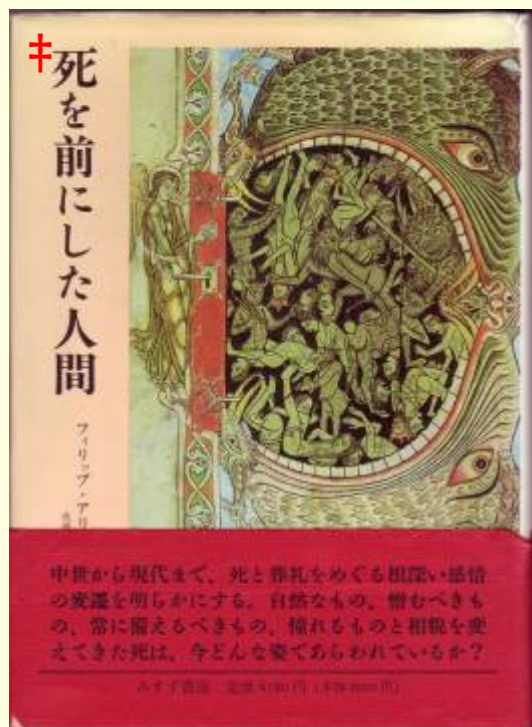
Orange Balloon Project



Ⅱ．遠ざかる死、しかし身近なもの

■ 死を遠ざける現代人

1990(原、1977)



フィリップ・アリエス『死を前にした人間』(成瀬駒男訳)
みすず書房

1986(原、1965)



ジェフリー・ゴラー『死と悲しみの社会学』(宇都宮輝夫訳)ヨルダン社

◇近親の死について子供に何も語れない親

- (1)「子どもたちには、おじいちゃんが死んだ、と話しました。それだけです。近頃の十代の子供たちは、そういったことには心を悩ませないのです。」
- (2)「その年頃の、つまり16歳より少し下の子供やグラマースクールを終えた子供に話すことは、ごく僅かしかありません。」

(3)「潮時を見て娘に話そうと思ったのですが、あまりに突然で、ショックも大きかったので、やめました。死体が家に置かれていたとき、娘はおびえはしませんでした。が、他方、過度の興味を抱いたりもしませんでした。」

(4)「私は説明しませんでした。子供たちは学校で習ったと思いますよ。」

(5)「子供たちには、私たちのやっていることに加わらせませんでした。そして聞かれない限りは、何も子供たちには話しませんでした。」

「故に軀殻は本体で有る、精神は之れが働き即ち作用で有る、軀殻が死すれば精魂は即時に滅ぶるので有る、夫れは人類の為に如何にも情け無き説では無いか、情け無くても真理ならば仕方が無いでは無いか、哲学の旨趣は方便的では無い、慰論的では無い、縦令殺風景でも、剥出しでも、自己心中の推理力の厭足せぬ事は言はれぬでは無いか。」

（中江兆民『続一年有半』1901年
第一章「総論」(一)「靈魂」)

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた

『おくりびと』
(配給：松竹株式会社)

のパンフレットの画像を
省略させていただきます。

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた

『おくりびと』
(配給: 松竹株式会社)

のパンフレットの画像を
省略させていただきます。

VOLUME 9 NUMBER 1 FEBRUARY 2004

MORTALITY

*Promoting the interdisciplinary study
of death and dying*

ISSN 1357-6275

Special Issue: Death in Japan
Guest Editor: John Breen

BrunnerRoutledge Taylor & Francis
healthsciences

1996年～

MORTALITY

VOLUME 9 NUMBER 1 FEBRUARY 2004

Special Issue: Death in Japan
Guest Editor: John Breen

PREFACE	1
INTRODUCTION	
Death issues in 21st century Japan John Breen	2
ARTICLES	
Organ transplants and brain-dead donors: a Japanese doctor's perspective Kato Shinzo	13
Funeral rites and changing perceptions of death in contemporary Japan Yamada Shinya	27
Pet funerals and animal graves in Japan Elizabeth Kenney	42
Japanese Christians and the World of the Dead Mark R. Mullins	61
The dead and the living in the land of peace: a sociology of the Yasukuni shrine John Breen	76
APPENDIX	
Death in Japan: a select bibliography John Breen	94

BrunnerRoutledge Taylor & Francis
healthsciences



1357-6275(2004)9:1;1-7

Ⅲ. 死が近い人々、死が謎となる人々

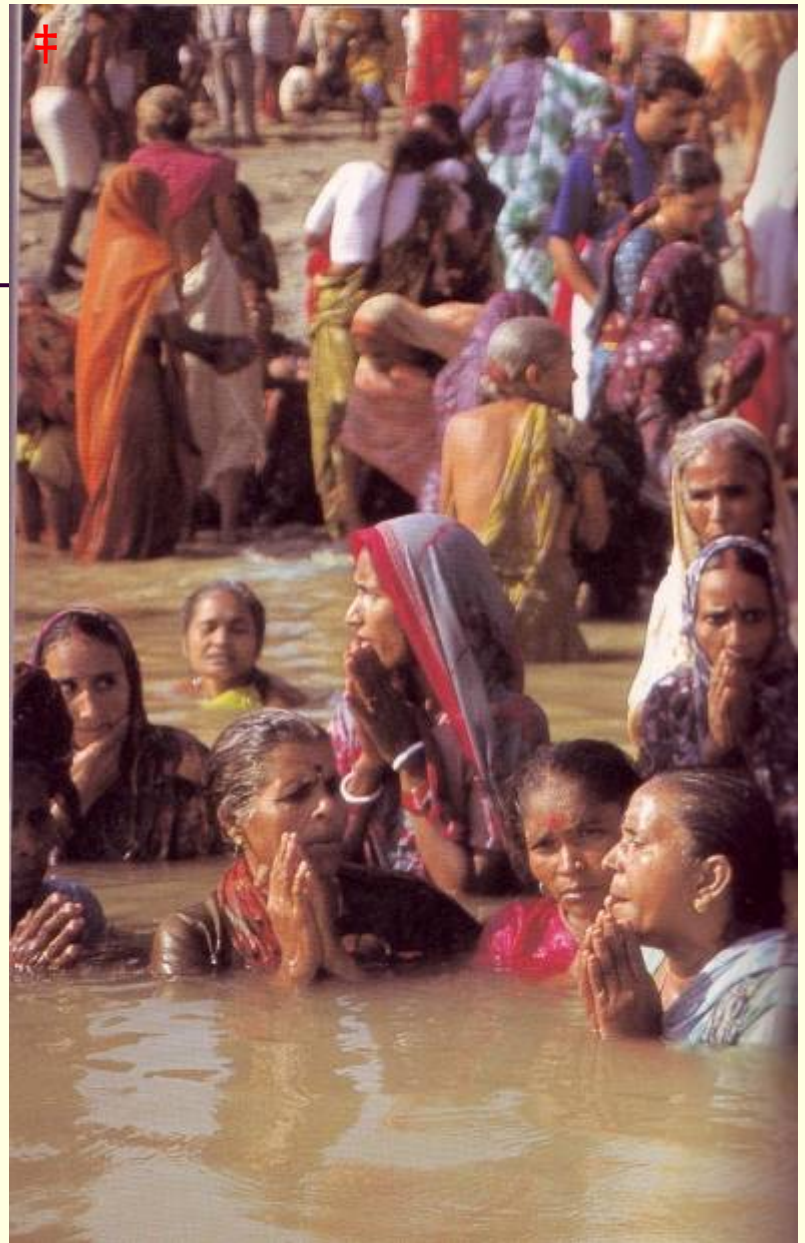
■ ベナレス(バナラス)の光景

死を待つ館(ムクティ・バワン)



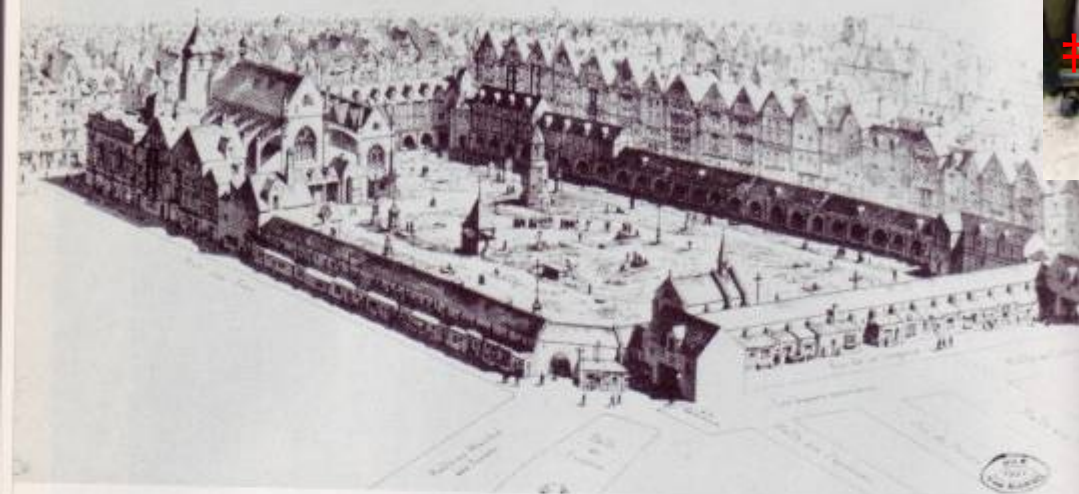
宮本久義他『アジア古都物語 ベナレス——生と死の聖地』日本放送出版協会、2002年、p58,pp62-63より引用

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた
写真を省略させていただきます。



宮本久義他『アジア古都物語 ベナレス——生と死の
聖地』日本放送出版協会、2002年、p13より引用

キ



キ

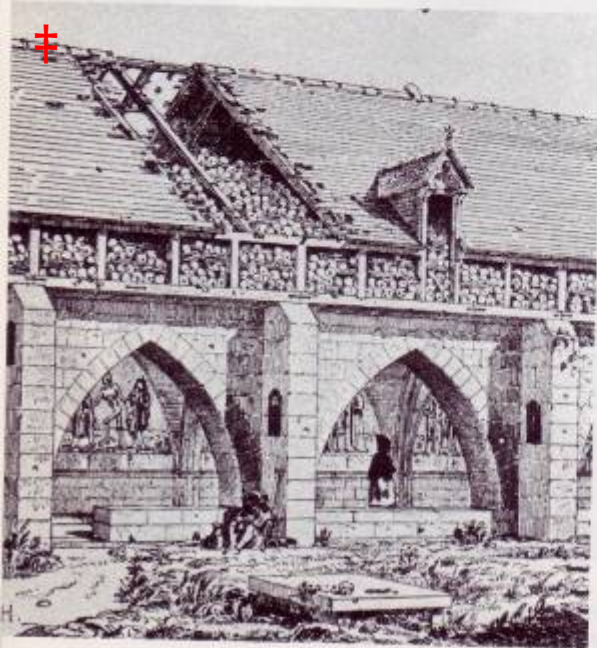
左上・左下: フィリップ・アリエス『死を前にした人間』(成瀬駒男訳)みすず書房、1990年(原著、1977年)口絵より引用
右上: むつ商工会議所ウェブサイトより引用

(<http://www.mutsucci.or.jp/kanko/itako-04.htm>)

右下: 独立行政法人 文化財研究所ウェブサイトより引用
(http://www.accu.or.jp/ich/jp/arts/A_JPN6.html)

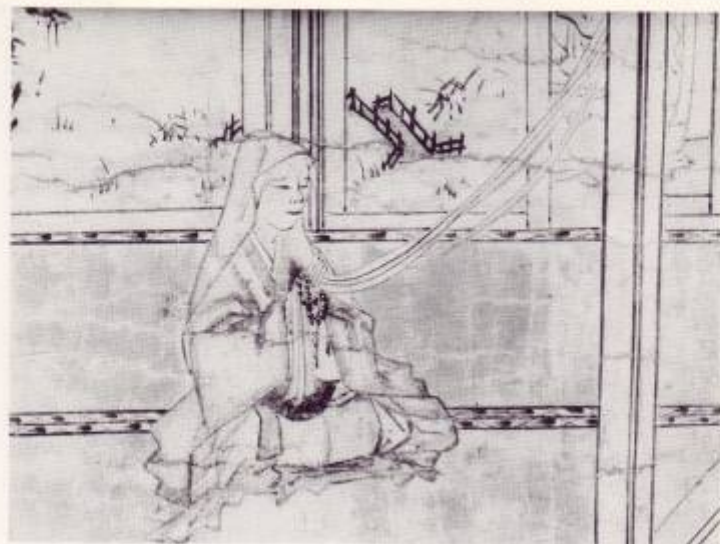
※隣接著作権者をさがしているので、お知らせください

キ



キ





大慈大悲觀世音菩薩
聖號自肩古
為東嶺新開
是月山秋月
是月山秋月
是月山秋月



大慈大悲觀世音菩薩
聖號自肩古
為東嶺新開
是月山秋月
是月山秋月
是月山秋月



「白骨の御文(章)」 蓮如(1415-99)

「それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、おおよそはかなきものは、この世の始中終、まぼろしのごとなる一期なり。されば、いまだ万歳の人身をうけたりという事をきかず。一生すぎやすし。いまにいたりてたれか百年の形体をたもつべきや。

我やさき、人やさき、きょうともしらず、あすともしらず、おくれさきだつ人は、もとのしずく、すえの露よりもしげしといえり。されば朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり。(中略)

されば、人間のはかなき事は、老少不定のさかいなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、念仏もうすべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。」

この旅は／自然へ帰る旅である
帰るところのある旅だから／楽しくなくてはならないのだ

.....

大地へ帰る死を悲しんではいけない
肉体とともに精神も／わが家へ帰れるのである
ともすれば悲しみがちだった精神も
おだやかに地下で眠れるのである.....
古人は人生をうたかたのごとしと言った.....
はかなさを彼らは悲しみながら
口に出して言う以上同時にそれを楽しんだに違いない
私もこういう詩を書いて
はかない旅を楽しみたいのである

（高見順「帰る旅」『死の淵より』1964年）

葉っぱのフレディ

——いのちの旅——

レオ・バスカーリア作

みらい なな訳



レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディ——いのちの旅』童話屋、1998年（原著、1982年）

って、枝にしがみつ^{えだ}く葉^はもあるし あっさり^ははなれる葉^はっぱもあります。やがて木^きは葉^はを落^おとして 裸^{はだか}どうぜんになりました。残^{のこ}っているのは フレディとダニエルだけです。

「引^ひっこしを^しするとか ここからいなくなるとか きみは言^いってたけれどそれは——」とフレディは胸^{むね}がいっぱいになりました。

「死^しぬ ということでしょ？」

ダニエルは口^{くち}をかたくむすんでいます。

「ぼく 死^しぬのがこわいよ。」とフレディが言^いいました。「そのとおりだね。」とダニエルが答^{こた}えました。

「まだ経^{けい}験^{けん}したことがないことは こわいと思^{おも}うもの^ものだ。でも考^{かん}えてごらん。世界^{せかい}は変^{へん}化^かしつづけてい^いるんだ。変^{へん}化^かしないものは ひとつもないんだよ。

春^{はる}が来^きて夏^{なつ}になり秋^{あき}になる。葉^はっぱは 緑^{みどり}から紅^{こう}葉^{よう}して散^ちる。変^{へん}化^かするって自然^{しぜん}なことなんだ。きみは春^{はる}が夏^{なつ}になるとき こわかったかい？ 緑^{みどり}から紅^{こう}葉^{よう}するとき こわくなかったろう？ ぼくたちも変^{へん}化^かしつづけてい^いるんだ。

死^しぬというの^も 変^かわること^のの一つ^{ひと}なのだよ。」

◇宮沢賢治(1896-1933)



Wikipediaより引用

☆「よだかの星」

「夜だかは、どこまでも、どこまでも、
まっすぐに夜へのぼって行きました。

(中略)よだかははねがすっかりしび

れてしまひました。そしてなみだぐんだ目をあげても
うーぺんそらを見ました。さうです。これがよだかの
最後でした。／それからしばらくたってよだかははっ
きりまなこをひらきました。そして自分のからだがい
ま燐の火のやうな青い光になって、しずかに燃えて
ゐるのを見ました。」(「よだかの星」第5巻、p.91-2)

☆「めくらぶどうと虹」

「本たうはどんなものでも変らないものはないのです。ごらんなさい。向ふのそらはまっさをでせう。まるでいゝ孔雀石のやうです。けれども間もなくお日さまがあすこをお通りになって、山へお入りになりますと、あすこは月見草の花びらのやうになります。それも間もなくしぼんで、やがてたそかれ前の銀色と、それから星をちりばめた夜とが来ます。／その頃、私は、どこへ行き、どこに生れてゐるでせう。又、この眼の前の、美しい丘や野原も、みな一秒づつつけづられたりくづれたりしてゐます。けれども、もしも、まことのちからが、これらの中にあらはれるときは、すべてのおとろへるもの、しわむものさだめないもの、みなかぎりないのちです。」